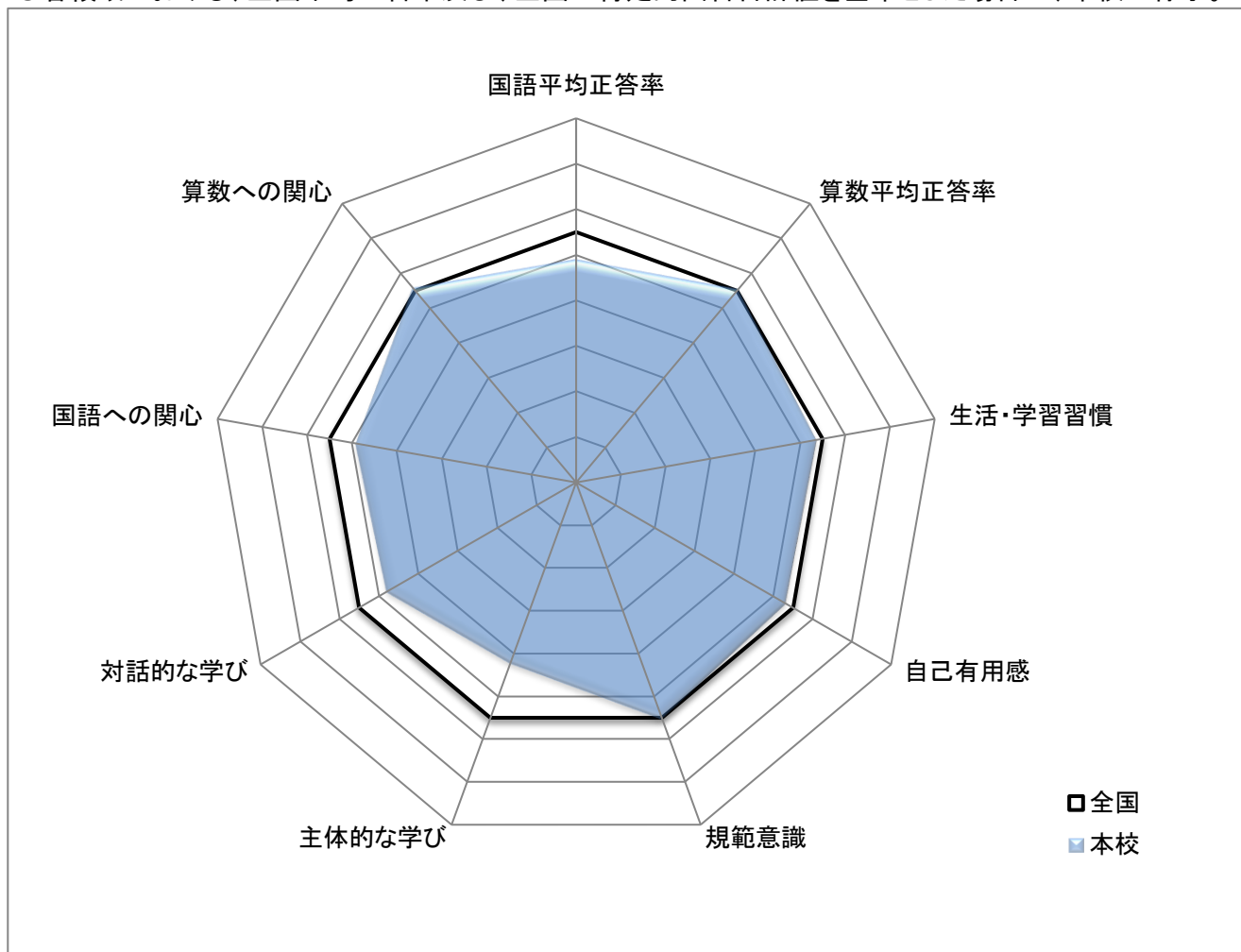


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

- 算数科は、全国平均値を上回っている。
- 国語科は、全国平均値を下回っている。
- 算数科への関心は比較的高く、それに比例して算数の平均正答率も比較的高い。
- 国語科への関心はやや低く、それに比例して平均正答率も低い。
- 「生活・学習習慣」「自己有用感」「規範意識」は、ほぼ全国平均値である。
- 「主体的な学び」「対話的な学び」を促すための授業改善・補充学習が求められる。

《授業改善のポイント》

- 引続き、「分かる授業創り」「鹿骨小学学習スタンダード」の徹底による授業改善・補充学習を展開していく。
- 国語科への関心と正答率を上げるために、漢字学習や読書活動など、多様な言葉を学び定着させる時間を増やす。
- 「主体的な学び」「対話的な学び」を定着・向上させるために、さらに授業改善を重ね、児童の興味関心の高まる教材や題材を提示し、当該授業の「めあて」と「まとめ」が明確化する学習を進めていく。

《チャートの特徴》

- 算数科への関心と平均正答率は全国平均を上回っている。
- 国語科への関心と平均正答率は全国平均を下回っている。
- 「生活・学習習慣」「自己有用感」「規範意識」は、ほぼ全国平均と同様である。
- 「主体的な学び」「対話的な学び」は、全国平均を下回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- 年2回「家庭学習週間」の工夫改善を図る。
- 「学校応援団」を通して、学力定着・向上への理解・協力を得ていく。
- 「話を聴く」「学習の構え」について、その重要性について啓発していく。